

第4回田村市立船引小学校運営協議会

日時：令和4年2月22日（火）18:00～19:30

場所：田村市立船引小学校 校長室

1 開会

2 学校運営委員長あいさつ

新型コロナウイルスで日々状況が悪くなっている中、対応にあたってくださっている先生方ありがとうございます。今回はこれまでの経緯と、本日の中心となる次年度の在り方について皆さんで考えて、よりよい協議会となるようお願いします。

3 本校校長あいさつ

前回の協議会から、今日にいたるまでオミクロン株にとっても苦勞している。症状の判断が難しい。無症状で登校していた児童が突然体調不良を訴え、陽性だったというケースもある。かかることはもう仕方がないが、何としても広めないということを学校として取り組んでいる。卒業式においては、規模を縮小し、5年生は代表児童のみにするなど、感染対策を考えていきたい。

今日は、学校評価と次年度について考える非常に大切な会となるので、よろしくお願ひします。

4 協議

(1) 後期の学校運営（これまでの経緯等）について

校長：学校だよりを基に話をしたい。縄跳び記録会においては、最初は保護者の参観も予定していたが、オミクロン株の猛威によって全学年保護者参観なしで実施した。算数コンテストを今年度初めて実施した。問題については、初めてということもあり、校長が作った。成績優秀者には表彰を行う。これは、縄跳び記録会など、スポーツ面で栄誉を与えるということは教育現場には多いが、勉強面では少なかったと思う。なので、このような取り組みで褒めていきたいと考え実施した。

A委員：質問等はあるか。

（特になし）

(2) 学校関係者からの学校評価

教頭：別紙を参照していただき、皆様方に学校の取組について評価をしていただいた。これまで、委員の皆様には授業参観や学校へ足を運んでいただいた際、見ていただいた本校の取組等を通して評価をしていただきたい。この評価は、保護者、児童からの学校評価アンケートを基に、教職員は自己評価を行い、さらに自己評価委

員会を開き、そこで評価した内容となっている。皆様には、この自己評価を基に、学校関係者として評価をしていただきたい。4段階で評価をしていただき、そこから改善点を見出し、教育委員会へ提出する運びとなる。

校長：この評価を基に適性であればこの学校の自己評価に近い評価をしていただき、これでは甘いということがあれば下げてください。大切なのは改善点の部分であり、その改善点を基に次年度の教育について考えていきたい。

教頭：別紙に船引小の運営ビジョンが入っているのでそれを参照しながら評価をしていただきたい。

B委員：評価をするには材料が少ない。

C委員：保護者からの意見があったかと思うが、それを見たい。

D委員：我々はこの運営委員であったり、ホームページであったり、そのようなもので学校の様子が分からないので評価するのが難しい。

C委員：校長から見て思いやりのある児童がいっぱいいるなあと思うことはどんなことか。

校長：校長室に遊びに来る児童や、廊下ですれ違った児童の様子や話してみると、思いやりがあるなど感じる児童は多いと思う。こちらを気遣うような声かけをしてくれる児童がいることも思いやりが育っていることに繋がっていると思う。ただ、物についての思いやりという点では、落とし物が大変多い。物に関心がないように思う。落とし物を廊下で並べて分かるようにしているがほとんど減らない。

C委員：今の子を見ると、物を片付けられなかったり、出しっぱなしだったり、物に関しては思いやりは確かにないように思う。

A委員：持っている物が多いということも関係あるように思う。

C委員：私の職場でも物を大切にしていない大人が見られる。物を壊してもそのままにしまっているなど。物を大切にできていないのは子どもだけでなく、大人もか。

A委員：大人ができていないから子どももできていないのかもしれない。

教頭：保護者アンケートにおいて自由記述で書いてあったのは「学校の先生方の子どもたちへの温かい関わりに感謝している」「清掃用具を新しくしてほしい」「先生方がよく見てくださっているが、先生方の負担が多くなっていると思う」「教科担任制について専門性が高まると思うが、本当に一人一人の児童を理解しているかということクエスチョン」「船引小漢字検定や算数コンテストなどの取り組みは素晴らしい」という意見があった。

3本柱の一つ「やさしく」は学級経営が主となる。我々としては、道徳教育をさらに推進することでもっと思いやりの心を高め合うことができると思う。また、清掃活動もこの部分で取り組んでいるが、現在縦割り班清掃を行っていない。それも関係してか、他学年との関わりを通して学ぶ心が育っていなかった。また、学級清掃が主として行っていることもあり、清掃活動としてもあまり上手とは言えない状

況であった。

「かしこく」では、新しい学習指導要領になり2年目となる。学習指導要領の解釈をしながら日々の授業に取り組んでいる。学校の取組をまとめた研究物ではよい評価をいただくことはできたが、これからも研鑽に励んでいくことで、児童の資質・能力を育んでいきたい。

「たくましく」では、まだまだ肥満傾向という部分が本校でも課題として残っている。この部分についても改善していかなければならない。

校長：学級清掃で清掃を行っているが、そのような状況からあまり上手な清掃ができていない。清掃用具についてはしっかり見直しをしていかなければならない。

「たくましく」の部分では、田村市は肥満傾向が多い。理由を考えたとき、スクールバスなど歩いてこないことも少し関連していると思う。

B委員：清掃活動と道德の関連は？

教頭：愛校心という部分で、道德科の授業を通して、学校に対しての愛校心を高めている。

B委員：子どもたちには怒ればやると思う。それではちょっと、という部分があるので、授業を通して育てることを取り組んでいると思う。ごみが落ちていれば自然に拾う。理想であるがそのような姿になればいいと思う。

C委員：先生方を評価すればいいのか。学校が取り組んでいる、という部分を評価すればいいのか。

教頭：学校を評価していただければ。

校長：学校としての評価は教員がつけている。これを総じて学校としての評価として示しているので、大丈夫と感じればA、いやまずいなとなればCやDとなる。

C委員：国語の理解力はどうか。

教頭：市の学力調査についてはこれから結果が返って来るが、問題をよく読んでいない様子が見られる。

C委員：読解力がないから読まないのか、読まないからできないのか。

校長：国語科については全国学力学習状況調査やふくしま学力調査において、本校は、平均は高いが、算数科は平均より低い。算数科の問題を読むことができていない所からすると読解力は課題である。

A委員：今の時代はタブレットで調べるとすぐに答えが出てくる。今の子どもたちはその答えが出ない過程が少ないのだと思う。

C委員：理解しているのかどうか、という部分を先生方はどれだけ理解をしているのか。

船引小は人数が多いので、先生方は一人一人を理解できているのか。さらに人が増えるので、統合には自分は反対している。教員の数が増えればよいのだが。先生方に気付きのスイッチを入れてもらうのがよいのだが、この人数では難しいと思う。

D委員：先生だけでなく、家庭の協力も必要。小さい時から本に触れさせるとか。

C委員：できる子だけ伸びていると、なんだか自分の学級はできているなということもあるのではないか。

教頭：福島県は30人程度の少人数教育を行っている。一人一人の見取りを努力はしているのだが。

C委員：未来の日本を背負っていくのは今の子どもたち。しっかり学力を伸ばしていかないとまずい。

校長：統合によって人数が増えると、学年によっては一クラス増えて、クラス単位の人数は減ることもある。

C委員：統合の話はもういいのだが、人数が多いから先生は見れない。不登校になるのも勉強ができないことが多いと思う。つまづかないようにすることが大切だと思う。もちろん学校だけでなく、保護者の協力も必要。コンテスト関係はいいと思う。

(3) 令和4年度教育課程の承認について

教務主任：教育課程届という次年度の本校の教育活動について教育委員会に提出するものについて見ていただきたい。本校の教育目標は「やさしく・かしこく・たくましく」と子どもたちに分かりやすくしている。重点目標は「徳・知・体」を基に3つ目標を定めている。教育課程編成の方針として、外国語では、外国語推進リーダーが本校では常駐、ALTも常駐して指導にあたっている。道徳教育においては、各教科等との関連を考慮しながら計画をしている。体育・健康に関する指導においては、体育科の授業だけでなく、給食指導なども通して指導していく。創意を生かした特色のある教育活動等においては、低学年から外国語に親しむために年10時間設定している。来年度から、授業が始まる前の朝の20分を漢字や計算の時間などと定めるのではなく、担任裁量の時間として自由に設定できるように定めた。1学年100名近いので、規律ある学校生活を送ることができるよう、学年集会を設けている。教科担任制では、今年度は5、6年生において社会科と音楽科家庭科を交換して行ってきた。多面的に児童を理解することができた。11月に鑑賞教室という全校生で芸術等に触れる機会を設けた。児童会活動は、児童の自主的・自治的な活動として取り組ませていく。日課表については変更はないが、けじめをつける児童を育成するためにチャイムを1、3、5時間目の始業に鳴らす予定である。

A委員：次年度もっとうる部分に力を入れてほしいという部分などはあるか。

C委員：運動会は5月ではなく、10月に行うのか。10月にコロナが流行したら中止するのか。

校長：春の運動会のデメリットは、入学したての児童や配慮が必要な児童にとって、落ち着いた学校生活をスタートすることができないなど、とても難しい様子が見られていたことである。

C委員：もともと5月にあったのはどうして。

校長：10月に学習発表会があったから。それを今年度よりなくしたので10月にした。

C委員：アイスブレイク等の意味合いで運動会をやっていたのでは。

校長：アイスブレイクは学級単位。そのような意味合いでやっていたのではない。

D委員：学習発表会はなくすのか。

A委員：わくわく発表会は子どもの成長が見られ、とてもよい機会だと思っていたが。この2年間はコロナで中止になっていたのでは仕方ないと思うが。例えば、最後の授業参観で規模を縮小して行うということはできないか。こんなことができるようになった、という成長の様子を見たいと思う。子どもたちの成長を発表する場があるとよい。

校長：今年の最後の授業参観でそのような取り組みを行う学級もあった。担任にとっても、成長を発表する場として考えている。行事として行うわけではないが、成長の発表が見られるようにしていきたい。

B委員：時数の問題か。

校長：次年度は今年度よりは2日多いのでそうではない。

B委員：チャイムについて、前回授業参観をした際、まだ授業をやっているのに隣の学級がワイワイやり始める学級があった。それはどうなのか。授業終了5分前なのに終わっていた学級があった。廊下に出るは騒ぐはで気になった。

C委員：これまではどうしてノーチャイムだったのか。

校長：時計を見て時間を意識した児童を育成するためである。

A委員：逆にそわそわ時計を気にする子がいるのでは。

校長：1, 2時間目を合わせて授業を行う際、チャイムが邪魔になる場合もある。

C委員：日本の教育においてはチャイムはあった方がよいのでは？

A委員：先生方がやりやすい方で取り組むと良いと思う。

B委員：チャイムがない学校は今までもあったが、意識付けをしっかりとすると整然とするはず。以前の授業参観ではそれが見られなかった。

A委員：一つの意見として捉えてほしい。

D委員：さつまいもの件を以前の協議会で意見を出したが、それはどうなったか。

教務主任：3学年の社会科「農家の仕事」で取り組んでいく。

A委員：いろいろと意見が出たが、それをまとめて次年度取り組んでほしい。

(4) その他 意見交換

C委員：テレビで虐待という事件を見て、とても虐待について気になっている。今現在学校側から見てそのようなことはないのか。

校長：虐待は通報義務がある。現在はそのような様子は見られていない。担任や養護教諭は身体の怪我や普段の様子についてよく見ている。心理的な虐待などについても

アンテナを高くしている。

B委員:田村市はそのあたりについて手厚くやっていると思う。親の犠牲になっている子がでないように。

D委員:1年生の給食のボランティアについてはどうなったか。

校長:3月15日締め切りにしたが、今のところ希望はない。

D委員:6年生が手伝うというのは。

校長:6年生は授業を行っている時間なのでできない。

5 閉会

今日の話し合いを基に次年度の教育活動に生かしていきたい。